

いことを明らかにした。この調査結果は、近日中に気象庁研究時報に投稿される予定である。

最近では、東北地方南部の観測点の月平均値をもとに、月別に各観測点の類似性及び相違を調べている。

このような地域気象現象の研究は今後の気象学及び気象業務の発展に寄与するものと考え、本学会はここに奨励金を送るものである。

**受領者：**橋本雅巳（広島大学附属福山中・高等学校）

**研究題目：**福山・東京間の新幹線車窓から見える雲の教材化

**選定理由：**橋本会員は昭和29年広島大学教育学部を卒業後、広島県下の公立中学校・公立高等学校の教諭を経て、昭和40年より広島大学附属福山中・高等学校に勤務、現在は副校長の職にありながら、気象を含む地学教育の改善のための研究を精力的に行っている。

昭和50年代の初めから、航空機によるリモートセンシングデータ、航空機から撮影した雲写真、気象衛星の雲画像、新聞天気図などを活用した気象教材の開発と指導を行ってきた。今回の研究はこれらの一連の研究の発展として行われたもので、新幹線で福山・東京間を4時間半で移動する間に車窓から見える雲を撮影して、天気図や気象衛星「ひまわり」の雲画像とともに

に活用できる教材の開発を目指したものである。

車窓から見える山・川・建造物などを目安に撮影地点を定め、17回の移動において各回平均55枚撮影した。天気と雲の特徴、雲の高さ、地形の影響を受けた雲の特徴や天気の推移などに注目して教材化を図った。撮影された雲の写真は、新聞天気図および「ひまわり」の雲画像と対応させることにより有効な教育利用が可能であると結論された。

今後さらに資料の蓄積・精選を行い、教育実践も重ねて質の高い教材に作り上げていこうとしている。

文部省の学習指導要領の改正が、実験観察の重視とともに、気象衛星の雲画像やアメダスの資料の活用を重視する方向で検討されている現時点において、橋本会員の研究は新しい気象教育のあり方の提案でもある。中学校・高等学校のこれからの理科の指導にあたって、自然の観察の重視と主体的な探求活動を通して科学の方法や科学的な思考力・判断力の育成の重視が指向されているなかで、気象教材に関して、学習内容の具体的事例を充実させてよりよい教材を開発していこうとする意欲は高く評価される。また、教育界において指導的立場にありながらなお、先頭に立って意欲的に研究に励んでおられる姿勢が後進に与える影響をも評価して、本学会はここに奨励金を贈るものである。

## 第4回オホーツク海と流氷に関する国際シンポジウムのお知らせ

**趣 旨：**本シンポジウムは海洋、気象、水産、生物、工学、リモートセンシングなどの学際的分野の研究者、技術者が一堂に集まり、オホーツク海や氷海、寒冷海域での諸問題について論議するものである。

**主 催：**オホーツク海・氷海研究グループ  
(Okhotsk Sea & Cold Ocean Research Association)

**会 期：**1989年2月5日(日)～7日(火)

**開催場所：**紋別市民会館

**会議の主題：**・氷海域の海洋、気象、水産、生物、リモートセンシング  
・氷の物性、力学、工学

**会議の構成：**口頭、展示発表、招待講演、パネルディスカッション

**締 切 日：**アブストラクト(200～300字)

1988年11月15日

最終原稿(図を含み4ページ程度)

1988年12月20日

要旨集をシンポジウム参加者に実費で配布します。

**シンポジウム申し込み方法：**参加希望の方は葉書に氏名、勤務先、連絡先住所、電話番号を明記してお申し込み下さい。応募用紙をお送りします。

**宛 先：**〒094 北海道紋別市南が丘町 6-4-10

北海道大学低温科学研究所 流氷研究施設

青 田 昌 秋

Tel:(01582)3-3722, Fax:(01582)3-5319